

各校で研究推進をマネジメントしてきた研究主任の先生方からのコメント
～県重点課題・情報活用能力育成事業の報告会を終えて～

味坂小学校 伊藤 成海 先生(県重点課題「STEAM教育」|年次・情報活用能力向上事業3年次)

研究主任として、新たな取り組みに挑戦しました。地域教材の開発や地域との連携、指導案の形式の検討には多くの時間をかけましたが、子どもたちが課題意識を持ち、意欲的に学ぶ姿にやりがいを感じました。今後は、子どもたちが日常生活の中で探究課題を見つける力を育てる具体的な方法を考えるとともに、教材開発や学習方法の工夫し、学校全体で共有できるようにしていきたいと考えています。

大原中学校 二田 伊吹 先生(情報活用能力向上事業3年次)

今年度より研究主任として研究を進めて参りました。研究を進める中で、情報活用・ICT活用を進めていくには、特定の教科だけで進めていくのではなく、様々な教科で活用場面を設定していくことが重要であると感じました。また、私たち教員が思っている以上に、子どもたちはICTを使いこなし、情報を収集・表現することができると感じました。「子ども達を信じて、思い切って任せてみる」という言葉には、大変共感しました。

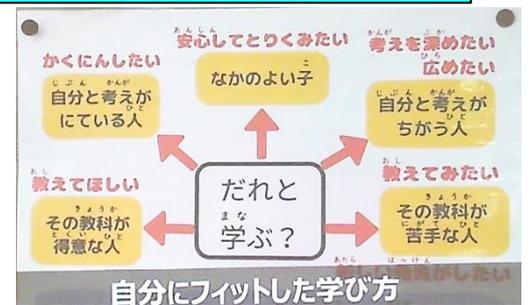
今後は、教員間のICT活用頻度の格差を小さくするためのチーム体制や、ICTを『文房具』のように使えるようにするための取組が課題だと考えます。

三国小学校 柳瀬 学 先生(県重点課題「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実2年次)

本校では「深く学び続ける子ども」を育てるために、自己調整学習に着目して、教師主導から学習者主体の授業へと授業改善をしています。そのために、「自己選択・決定の場の設定」、「課題意識を高める工夫」、「振り返り活動の工夫」、「ねらいに応じたICT活用」の4つの手立てを仕組み、学習の環境づくりに取り組んでいます。特にICT活用では、①子ども主体の学びになるか ②教師も子どもも負担が減るか ③主眼達成に向けて必要な時間の確保ができるか この3つの視点を基に、ICTの効果的な活用を図り、深く学び続ける子どもの姿を引き出しています。「教育観・授業観」の転換を求められる研究ですので、教師も悩みながらの研究です。来年度は研究の成果や課題を整理して発表できるよう、私たち教師集団も学び続けていきたいです。

中村学園大学 山本朋弘 教授 指導助言 (味坂小・大原中での助言要旨)

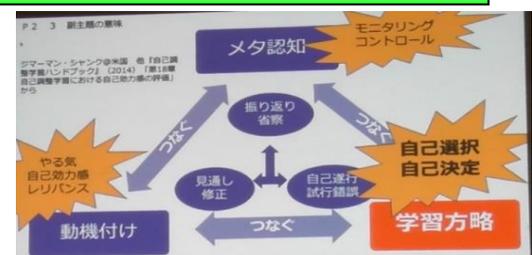
- 受動的な知識は暗記できても必要な時に使えない。本日の授業では、生活に密着した「真正の課題」を取り上げており、思考表現型の生きた学力が培われる。
- 『1stGIGA』から『2ndGIGA』へステージを上げる。
・「教師主導で同一内容・方法を教師の指示によって展開する時期」から「学習者主体で多様な内容・方法から自己選択・自己決定する学びへ」※文房具の一つとして日常使いを…



山本教授のプレゼンより「協働的な学び」について

福岡教育大学 坂井 清隆 教授 指導助言 (三國小での助言要旨)

- 『深く学び続ける子ども』を育てるということは、「教える」という従来の授業観から「学ぶ環境を整える・自己調整を促す」新しい教育観・授業観に転換することである。
- これまでのように教師主導で動機づけをし、学習方略を指示するものではなく、三國小では、子ども主体で「自己選択」「自己決定」をし、学びのサイクルを回すよう取り組んでいる。



坂井教授のプレゼンより「自己調整」について

ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図った授業紹介

※紙面の関係上、一部の授業を紹介します。

小学5年生(総合)「見つめよう わたしたちの農業」 授業者 伊藤 成海 先生

味坂コミュニティセンターで毎週水曜日に開催される「あじっ子市場」を味坂名物にするため、各グループで考えた課題に主体的に取り組む授業でした。小郡市が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」が随所で見られる複線型の授業モデルだったと思います。教師の指示はほとんどなく、伴走者としての個別の支援をする姿が印象的でした。

商品開発グループ 今日のめあて タブレットを使って、 試作品を完成させよう。	会員増やそうグループ 今日のめあて ◎ポスターを完成させポスター をどこに貼るか考えよう。
レシピ開発グループ 今日のめあて ◎みんなで協力して、試作品 づくりをしたり、話し合おう！	宣伝グループ 今日のめあて ◎タブレットを使ってポスター の試作品作りをしよう。

4つのグループの課題



「おかわかめ」を使ったお菓子を試作するグループ

中学2年生(社会)「地域の在り方」 授業者 二田 伊吹 先生

単元課題を「小郡市の未来を考えよう。～小郡市の課題を解決するには～」と設定し、個人で考えた課題と要因、解決策をグループ発表し、プレゼンテーションをブラッシュアップする授業でした。小郡市の課題とその要因、解決策をより説得力のあるものにするため、色々な資料を収集して、ロイロノートやPower Pointなど自分に合ったアプリを選択し、まとめていました。発表を聞いた友達は、視点カードを使って、様々な立場から意見を出し合い、多面的・多角的に考察できる工夫がありました。



グループ交流の視点カード



グループ発表の様子

小学5年生(総合)「三国の農業を盛り上げようプロジェクト」 授業者 田村 仁識 先生



お米クイズ(左) 4コマ漫画(右)のアドバイスをもらう様子

各グループが考えた三国のお米 PR するプランを紹介し、GTや友達からのアドバイスをもらい見直しをする授業でした。子どもたちが考えたPRプランは、「お米クイズ」、「4コマ漫画」、「イメージソング」、「買い物かごに入れるPOP制作」、「動画制作」など、様々で、GTとして来ていただいたJAの職員、農事組合の方や地域の方(消費者)、友達からのアドバイスをもとに話し合いを進め、プランの再検討を行いました。

参加した先生からの感想(事後アンケートより一部抜粋)

- **【味坂小】**の公開授業については、子どもたちが相手意識や目的意識を明確にもつことができる課題を設定する重要性を痛感しました。子どもたちそれぞれが、自分が選択した表現方法で課題と向き合っていて、いきいきとしている姿が心に残りました。多様な活動が、多様な場所で同時進行する授業について、「難しいだろう。」と限界を決めていた自分に気付かされました。
- **【大原中】**社会科の中で地域学習に積極的に取り組んでいられることが素晴らしいと感じました。地理的分野の中で社会科の本質としての情報活用能力を総合的に発揮できるのは、地域学習、地域調べの中だと感じています。是非、中学校社会科を担当される先生方に挑戦していただけたらと思いました。
- **【味坂小・大原中】**どうしても教師(私自身も)は「教える」ということばかり重きを置いてしまい、「子どもたち」を主語にすることができていないように感じます。今回の2つの授業は、「教える」ポイントと、子どもたちが「思考判断し、表現する」ポイントが明確にされており、そのための、課題の設定が良かったのだと感じました。最後、山本教授がおっしゃった、「主体的な学習」をゴールとして、そのために、どう進めていくのか、いかにして、子どもたちに自己選択と自己決定させていくのか、教師の「教える」場面はどこで、「思考判断し、表現する」場面はどこなのか、1単位授業ではなく、単元を通して見直し、授業改善を図っていく必要があると感じることができました。この学びを、いかにして自校に持ち帰り、活用を広げていくのが課題だとも感じました。
- **【三国小】**常時活動の質の高さ、常時活動の意味を学ぶことができ、大変感銘を受けました。まず、授業前に歌い、音楽に対する意欲を高める場面、注目をさせる際、「まねっこ」として手拍子をさせながら、音楽を形づくっている要素のうち、「リズム」に着目させている面、授業のはじめと終わりに教師が実際にピアノを弾き、生の音楽に触れさせながら授業の開始、終わりを意識づけさせている場面等、教師の手立てがどれも素晴らしいものでした。小学1年生の段階から「思いや意図」をもたせながら学習が進んでいるため、音楽科としての自己選択・自己決定ができていていると感じました。
- **【三国小】**「三国の農業を盛り上げようプロジェクト」の計画立案し、三国農業サミットの開催をして頂きたい。米のPRプランは大変よく出来ていると思います。